

出生前診断

～出生前診断って、何のためにするのだろう？～

■妊娠すること

妊娠するということには、様々な意味が含まれています。

そもそも、妊娠するまでの道のりは、人それぞれ、想いも様々です。おなかの中に別の生命が居るなんてとても不思議な出来事ですし、おなかの中の赤ちゃんに心を寄せたり、親と子の関係性の始まりでもあり、肉体的、社会的、心理的に親になる変化を求められることになります。希望や期待はもちろん戸惑いや不安もあることが想像されます。

妊娠は、自然な営みではありますが、私たちの生活に心身ともに大きな変化をもたらす、人生でとても大きな出来事といえます。

当然、おなかの赤ちゃんの情報は気になります。

「ちゃんと育っているのかな？」

「男の子かな？女の子かな？」

そんな赤ちゃんの情報を集めるのが妊婦健診です。

つまり、**妊婦健診は赤ちゃんの健康診断**といえます。



妊婦健診の役割

■妊婦健診と出生前診断は違うの？

妊婦健診では、必ずしも毎回超音波検査を行うわけではありませんが、赤ちゃんが順調に大きくなっているか、からだのつくり、特に心臓などがうまく作られ働いているかなどを確認します。異常を探すのではなく、赤ちゃんの状態をひとつひとつ確認していく作業になります。そのことは同時に、赤ちゃんの成長を確認しながら、お母さんや家族が少しずつ自信を持ち、親になる準備をする事につながります。

赤ちゃんを観察する中で、赤ちゃんに病気が見つかることがあります。赤ちゃんの場合もわたしたちと同じで、より詳しく検査を行い、どんな病気なのかを診断し、治療方法を探します。特殊な場合以外はお腹の中で治療を行う事は出来ないことが多いので、生まれてきてから治療をする準備を行う事になります。

診断が難しかったり、高知では治療が難しい場合や、時には現在の医学では治すことが出来ない病気が見つかることもあります。

このように、なにか治療方針に関わることが分かった場合に、妊婦健診は出生前診断としての意味を持つことになります。



難しい病気が分かったとき

妊娠出産は病気では無く、うまく行って当たり前という印象を持っている方が多いと思いますが、頻度は少ないですが病気の方も残念ながらゼロには出来ません。

「治療をしても、完全に治らないかもしれない」とか、
「後遺症が残るかもしれない」

ということを想像することは
とてとても、難しいことです。

赤ちゃんの情報は、不確実で、理解が難しく、あいまいなことが多いです。

まだ、そこに居ない児への想いをまとめることは簡単ではありません。

どうしたら良いのだろうか？

正解は1つではない、とても難しい問題です



知る権利、知らずにいる権利

おなかの赤ちゃんが元気で居て欲しいと願う気持ちはみんな同じです。病気があっても無くても大事な赤ちゃんであることに変わりはありません。

赤ちゃんの情報を知りたいと思うことと同じように、知りたくないと思う事もあるかも知れません。どちらも同様に大切です。

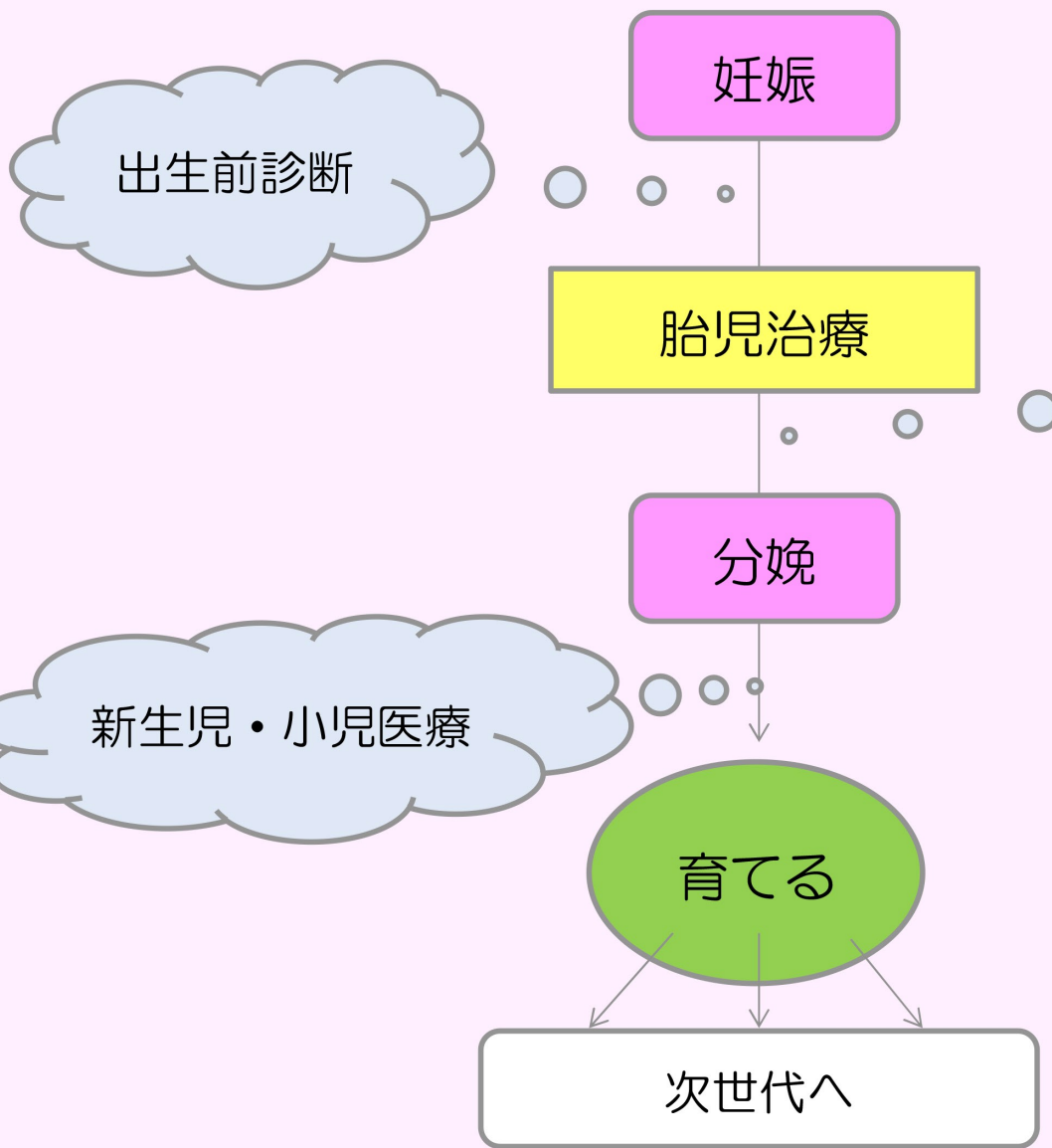
検査をすれば結果は出ますが、だからといって必ず検査を受けなければならないことはありません。出生前診断は義務で行うものではありません。

得られた情報からどのような可能性が考えられるのか、その可能性からどのような事が想像出来るのかを、情報がある場合、無い場合それぞれについて悩みながら、「どうしたら良いか」を考えていけたらと思っています。医療スタッフもできるだけその力になればと考えています。お母さんと
を一緒に集め、赤ちゃん
見つける事が出来れば



お父さんに必要な情報
にとってより良い道と
と思っています。

「自己決定」って、実は難しい



“選択肢”が沢山

胎児・周産期医療

“自己決定”

自分で選べる
でも責任は自分自身にある

よく知らないと選べない！
自己決定って、実はすごく
大変なことかもしれません

出生前診断

～みんなで一緒に考えましょう～

- 赤ちゃんの事ついてどのような事を知りたいですか？
- わかった情報が、赤ちゃんやお母さん、お父さん、ご家族にとってどんな意味を持ちますか？
- 生まれてくる赤ちゃんと、育てていく家族にとってどのような環境が必要でしょうか？
- ご家族や赤ちゃんにとってどんな選択があるでしょうか？ などなど

自分自身や、大切な人が
自分らしい納得いく答えを出すために
医療者は出来るだけのお手伝ができたらと
思っています

まずは相談してください！

